

# 世界史論述問題の書き方（実践編）

夏期合宿書き下ろし特別編

出題年：2001年

出題校：東京大学

問題文

輝かしい古代文明を建設したエジプトは、その後も、連綿として5000年の歴史を営んできた。その歴史は、豊かな国土を舞台とするものであるが、とりわけ近隣や遠方から到来して深い刻印を残した政治勢力と、これに対するエジプト側の主体的な対応との関わりを抜きにしては、語る事が出来ない。

こうした事情に注意を向け、

- 1) エジプトに到来した勢力の関心や進出にいたった背景
- 2) 進出を受けたエジプト側がとった政策や行動

の両方の側面を考えながら、エジプトが文明の発祥以来、いかなる歴史的展開をとげてきたのかを概観せよ。解答は18行（540字）以内とし、下記の8つの語句を必ず1回は用いたうえで、その語句の部分に下線を付せ。

アクティウムの海戦　イスラム教　オスマン帝国　サラディン  
ナイル川　ナセル　ナポレオン　ムハンマド・アリー

## 1. 解答用紙の使い方

- ・算用数字は、1マスに2文字記す。17世紀
- ・原稿用紙とは違う。すなわち、  
文頭1文字空け、改行等は特別の指示が問題文にない限りしない。

## 2. 「答案構成」→「字数配分」→「論述」の順序

まず答案構成…何を書くのか、を書き出し、選別する。

→ここで答案のデキの8割を決める。

ここで要考量要素（加点要素）、他事考量（解答用紙のムダ使いとなり、書くべきことが漏れて大幅な減点につながる）を厳格に選別すること。その際に、当然であるが問題文が何を要求しているのかを精読しなければならない。ただ、知ってることを羅列する文章は、まったく得点に結びつかない。問題文の要求に応じてこそ得点が付与されるべきものである。

問題例を取り上げてその手順を確認してみよう。

輝かしい古代文明を建設したエジプト（書くべき場所、または主役）は、その後も、連綿として5000年の歴史（書くべき時代の幅）を営んできた。その歴史は、**（1）豊かな国土を舞台とするものであるが、（2）とりわけ近隣や遠方から到来して深い刻印を残した政治勢力と、これに対するエジプト側の主体的な対応との関わりを抜きにしては、語る事が出来ない。**

このリード文には、（1）豊かな国土を舞台とする、（2）とりわけ…という考量要素が含まれている。ここを「8つの指定語句」に絡めて的確に指摘できるかどうかがこの論述問題の攻略のカギとなる。

★（2）は分かりやすい。「語る事ができない」とリード文が述べているから、「触れていなければ、得点を付与することはできない」ということだ。しかし、（1）は受験生が往々にしてスルーしてしまうだろう。ここで大きく差がつくと思われる。

しかし、そのあとに、問題文はこうつづけている。

こうした事情に注意を向け、

1) **エジプトに到来した勢力の関心や進出にいたった背景→リード文の（1）**

2) **進出を受けたエジプト側がとった政策や行動→リード文の（2）**

の両方の側面を考えながら、…概観せよ。

（1）も重要な論点ということである。というか、（1）がなければ（2）の連中はエジプトにやってこなかったであろう？そうすると、前提をなす重要な論点ということになる。

では、答案構成で行うべき本問の思考形態を文字に起こしてみよう。

「（1）豊かな国土」←エジプトに到来した連中の関心の的について。

「豊かな」から連想される、具体的内容ってなんだろうか？

・ナイル川流域に位置する。ああ、すげー穀物採れるよな…

・場所的関心…大航海時代以降は、アフリカ大陸を回りたくないニーズ

→エジプトあたりを通れると交易がラク（だからスエズ運河作られた）

※豊かさ、は基本的に「生産性」「場所的利便性」「気候」あたりがポイント。

ただ、なんでもかんでもエジプト文明からナセルまで論じたら 540 字なんて無理ゲーである。

そこで、(2) : 外部勢力との絡み、指定語句、から書くべき内容を絞る。

・指定語句を時代順に並べてみる。(これが書く順序のものさし)

そうすると、5つの時代区分が見えてこよう。

- ①エジプト文明期←ナイル川！
- ②ローマ時代←アクティウム！
- ③イスラム時代←サラディン！オスマン！
- ④列強、帝国主義時代←ナポレオン、ムハンマドアリー！
- ⑤現代←ナセル！

そして、それぞれについて、

まず、「どんな関心・背景」があつて、

→どんな外部勢力を惹きつけたか

→エジプトはどう対応したか

→結果的にどうなったか。

この4点を確実に記述していくことになる。もう、分かると思うが、指定語句がそれぞれ①～⑤の時代について、この4点のどれかにあたっていることがわかりでしょう。従って、足りない語句(これが、不可視指定語句=キーワード=配点)を補って文章化すれば良い。(ここまでがキモ中の肝である！ここでほぼ決まる。)

答案構成では、このような思考を経た上で、

- ①エジプト文明期←ナイル川！  
…新王国と生産性を目当てとしたヒクソス侵入。  
ヒクソスから戦術習得→結果シリア遠征。
- ②ローマ時代←アクティウム！  
…生産性は魅力。ローマが攻めてくる。→結果属国化。  
(アケメネス朝の影響も記すか？字数に余裕があれば)
- ③イスラム時代←サラディン！オスマン！  
…イスラムの浸透。ヨーロッパからの脱出の契機。  
十字軍が攻めてきた！(聖地奪回に関心の的)→サラディンの抵抗  
→結果、マムルークの繁栄→ただし、オスマンへの吸収される
- ④列強、帝国主義時代←ナポレオン、ムハンマドアリー！  
…場所的便宜、スエズ運河。列強の関心の的はここ！
- ⑤現代←ナセル！  
…なおスエズ運河。

そして、字数配分。①～⑤でどれがエジプトにとって重要といえるかでランクを付ける。

①はそれほどではない。やはり、エジプトが長く影響を受けることとなったところに少し字数を割いてやる必要がある。③イスラム、④⑤近現代かなあ・・・。

ただし、字数配分は細かくやるとキリがないので、あとは、さっさと箇条書きを文章化して下書きに移ることだ。なお、下書きは自分が読めて、「字数の配分」がある程度明確にできればそれでよい。私はミミズのような字で書いていた。

さあ、では書いてみよう！！